

令和 7 年度教育課程進度計画表



関西医療学園専門学校
東洋医療学科

分 野	基礎分野		
教育内容	科学的思考の基盤、人間と生活		
講義名	情報科学		
講義期間	講 義		
単位数	2 単位		
時間数	3 0 時間		
学 科	東洋医療学科	配当年次	1 年
必修・選択区分	必 修		
実務経験			

講義内容・目標	エクセルの基本操作（表、グラフ、データベース）を理解し、資料作成ができることを目標とする。		
授業計画	1	パソコンの基礎項目（拡張子、フォント、ウィンドウズ）	
	2	文書入力と文字変換、IME パットの機能	
	3	エクセルの概要と基本操作（セル選択、連続データの作成）	
	4	セルの書式設定（セルや文字列への書式設定）	
	5	行・列の調整、シートの操作	
	6	計算の基本と式の複写	
	7	基本の関数と数式のセル参照	
	8	日付と時刻の考え方	
	9	各機能の確認と練習問題	
	10	グラフ操作（作成と編集）	
	11	シートのスクロール、枠の固定、データベースの操作	
	12	印刷の各種設定	
	13	各機能の確認と課題作成の練習問題	
	14	実技試験	
	15	利用頻度の高い関数	

成績評価	実技試験
評価基準	6 0 点以上（1 0 0 点満点）

分 野	基礎分野		
教育内容	科学的思考の基盤、人間と生活		
講義名	生命科学		
授業方法	講 義		
単位数	2 単位		
時間数	3 0 時間		
学 科	東洋医療学科	配当年次	1 年
必修・選択区分	必 修		
実務経験	はり師、きゅう師		

講義内容・目標	基礎医学を学ぶために必要な生物学を理解し医学系基礎科目の学習がスムーズに行えるようにする。	
授業計画	1	科学の基礎、ヒトのからだを構成する物質
	2	原核細胞と真核細胞の特徴
	3	原核生物、真核生物、ウイルスの違い
	4	細胞分裂（体細胞分裂、減数分裂）
	5	細胞周期（細胞周期の調節、細胞周期の破綻）
	6	細胞死（細胞の損傷、細胞の適応）
	7	細胞死（アポトーシスとネクローシス、アポトーシスと疾患）
	8	細胞内外の情報伝達（ホルモン、サイトカイン、神経）
	9	分子生物学の基礎（DNA、遺伝子）
	10	遺伝情報の流れ（遺伝子からタンパクへ）
	11	PCR 法
	12	遺伝子組み換え（技術の原理、医学への応用）
	13	再生医療（輸血、臓器移植、（細胞レベルの再生医療、多能性幹細胞の可能性、ES 細胞、iPS 細胞）
	14	生体防御
	15	まとめ

成績評価	筆記試験
評価基準	6 0 点以上（1 0 0 点満点）

分 野	基礎分野		
教育内容	科学的思考の基盤、人間と生活		
講義名	中国語		
授業方法	講 義		
単位数	2 単位		
時間数	3 0 時間		
学 科	東洋医療学科	配当年次	1 年
必修・選択区分	必 修		
実務経験			

講義内容・目標	正しく発音し、簡単な会話が聞き取れること。学んだ語彙や基本的な構文法を用いて、相手に簡潔にかつ正確に伝えることを目標とする。	
授業計画	1	中国語と日本語の相違点について
	2	第1課 単母音、二重母音、三重母音と声調
	3	第2課 鼻母音
	4	第3課 子音
	5	発音のまとめ
	6	第4課 “自我介绍” / 自己紹介する。
	7	判断動詞“是 shì” / …です。基本的な使い方
	8	人称代名詞・指示代名詞、“是 shì”を扱い時の注意点！
	9	第5課 “我有学生证。” / 学生証を持っています。
	10	所有する“有 yǒu” / 所有する・持つ・そなえている
	11	“二 èr”と“两 liǎng”の使い方
	12	第6課 “厕所在哪？” / トイレはどこですか。
	13	在 zài” / （ある場所に）いる・ある。方位詞
	14	学校を案内する
	15	学期まとめ

成績評価	筆記試験
評価基準	60点以上（100点満点）

分 野	基礎分野		
教育内容	科学的思考の基盤、人間と生活		
講義名	保健体育		
授業方法	講 義		
単位数	2 単位		
時間数	3 0 時間		
学 科	東洋医療学科	配当年次	1 年
必修・選択区分	必 修		
実務経験			

講義内容・目標	健康増進の運動を理論だけでなく実践できるようになる。	
授業計画	1	ガイダンス
	2	運動前のセルフチェック
	3	ストレッチング（セルフストレッチング）
	4	〃（ダイナミックストレッチング）
	5	バランスエクササイズ
	6	〃
	7	有酸素運動（ウォーキング）
	8	〃（ジョギング）
	9	〃（SAQ）
	10	レジスタンス運動（体幹のトレーニング）
	11	〃（下半身のトレーニング）
	12	〃（上半身のトレーニング）
	13	〃（コーディネーショントレーニング）
	14	〃（サーキットトレーニング）
	15	まとめ

成績評価	筆記試験
評価基準	6 0 点以上履修認定（1 0 0 点満点）

分 野	専門基礎分野		
教育内容	人体の構造と機能		
講義名	人体の構造と機能		
授業方法	講 義		
単位数	3 単位		
時間数	6 0 時間		
学 科	東洋医療学科	配当年次	1 年
必修・選択区分	必 修		
実務経験	はり師、きゅう師		

講義内容・目標	鍼灸師にとって必要な解剖学を理解する。		
授業計画	1	人体の構造と機能 (I)	
	2	人体の構造	
	3	体表構造	
	4	消化器系	(口腔)
	5	〃	(歯・舌)
	6	〃	(唾液腺、咽頭)
	7	〃	(食道、胃)
	8	〃	(小腸、大腸)
	9	〃	(肝臓、胆嚢、膵臓)
	10	呼吸器系	(外鼻、鼻腔)
	11	〃	(喉頭、気管支、肺)
	12	泌尿器系	(腎臓)
	13	〃	(尿管)
	14	〃	(膀胱、尿道)
	15	〃	(膀胱、尿道)
	16	生殖器系	(女性生殖器)
	17	内分泌系	(総論)
	18	〃	(下垂体)
	19	〃	(上皮小体、副腎)
	20	循環器系	(心臓)
	21	〃	(動脈、静脈)
	22	〃	(リンパ、胎児循環)
	23	神経系	(総論)
	24	〃	(脊髄、延髄、橋)
	25	〃	(間脳、大脳、脳室)
	26	〃	(髄膜、伝導路)
	27	〃	(脳神経)
	28	神経系	(脊髄神経)
	29	感覚器系	(視覚器)
	30	〃	(聴覚、平衡覚)
		〃	(嗅覚、味覚)

成績評価	筆記試験
評価基準	6 0 点以上 (1 0 0 点満点)

分 野	専門基礎分野		
教育内容	人体の構造と機能		
講義名	人体の構造と機能		
授業方法	講 義		
単位数	3 単位		
時間数	60 時間		
学 科	東洋医療学科	配当年次	1 年
必修・選択区分	必 修		
実務経験	はり師、きゅう師		

講義内容・目標	下記の講義計画の内容について正確な理解と、さらに自己学習が出来ることを目標とする。		
授業計画	1	人体の構造と機能 (Ⅱ)	
	2	解剖学について	
	3	運動器系 総論 (骨格系)	
	4	" (筋系)	
	5	運動器系 全身の骨格 (脊柱)	
	6	" (胸郭)	
	7	" (上肢の骨格 関節)	
	8	" (下肢の骨格 関節)	
	9	" (頭蓋骨)	
	10	" (頭蓋骨)	
	11	運動器系 体幹の筋	
	12	"	
	13	"	
	14	運動器系 体幹の運動・局所解剖	
	15	運動器系 体幹の脈管・神経	
	16	"	
	17	"	
	18	"	
	19	運動器系 上肢の運動・局所解剖	
	20	運動器系 上肢の脈管・神経	
	21	運動器系 下肢の筋	
	22	"	
	23	"	
	24	運動器系 下肢の運動・局所解剖	
	25	運動器系 下肢の脈管・神経	
	26	運動器系 頭頸部の筋	
	27	"	
	28	運動器系 頭頸部の体表・局所解剖	
	29	運動器系 頭頸部の脈管・神経	
	30	"	

成績評価	筆記試験
評価基準	60 点以上 (100 点満点)

分 野	専門基礎分野		
教育内容	人体の構造と機能		
講義名	人体の構造と機能		
授業方法	講 義		
単位数	3 単位		
時間数	6 0 時間		
学 科	東洋医療学科	配当年次	1 年
必修・選択区分	必 修		
実務経験	はり師、きゅう師		

講義内容・目標		ひとの生命現象を人体の構造と機能の両面から理解し、臨床医学を理解するための基礎知識を修得する。
授業計画	1	人体の構造と機能 (Ⅲ) 生理学の基礎 (生理機能の特徴、細胞の構造と機能)
	2	〃 (物質代謝、体液の組成と働き)
	3	〃 (物質移動)
	4	循 環 (血液の組成と働き)
	5	〃 (止血、繊維素溶解、血液型)
	6	〃 (心臓血管系、心臓の構造と働き)
	7	〃 (血液循環)
	8	〃 (血液循環、循環調節)
	9	〃 (循環調節)
	10	〃 (リンパ系)
	11	呼 吸 (呼吸器、換気とガス交換)
	12	〃 (呼吸運動とその調節)
	13	消化と吸収 (消化と吸収)
	14	〃 (消化管の運動)
	15	〃 (消化液)
	16	〃 (吸収)
	17	〃 (肝臓の働き、摂食の調節)
	18	代 謝 (食品と栄養素、代謝)
	19	〃 (各栄養素の働きと代謝)
	20	体 温 (体温調節)
	21	〃 (体温の産生と放熱、発汗とその調節、体温調節の障害)
	22	排 泄 (腎臓の働き)
	23	〃 (腎循環、尿生成)
	24	〃 (腎臓と体液の調節、蓄尿と排尿)
	25	内分泌 (ホルモンの特徴、視床下部と下垂体、視床下部ホルモン、下垂体ホルモン)
	26	〃 (甲状腺、副甲状腺、膵臓および副腎のホルモン)
	27	〃 (精巣、卵巣のホルモン、その他のホルモン)
	28	生殖・成長と老化 (生殖)
	29	〃 (妊娠と出産)
	30	〃 (成長、老化)

成績評価	筆記試験
評価基準	6 0 点以上 (1 0 0 点満点)

分 野	専門基礎分野		
教育内容	人体の構造と機能		
講義名	人体の構造と機能		
授業方法	講 義		
単位数	3 単位		
時間数	6 0 時間		
学 科	東洋医療学科	配当年次	1 年
必修・選択区分	必 修		
実務経験	はり師、きゅう師		

講義内容・目標	神経、筋、運動、感覚、生体の防御機構、身体活動の協調を学び理解する。国家試験を想定した問題を解かせ、四者択一問題に慣れさせる。		
授業計画	1	人体の構造と機能 (IV)	
	2	ガイダンス(全体の概要)	
	3	ニューロンの基本構造とその働き	
	4	支持細胞の働き、軸索輸送、変性と再生、神経線維の興奮伝導	
	5	静止電位と活動電位	
	6	興奮伝導の仕組み	
	7	神経線維の種類、シナプス伝達(興奮性・抑制性)	
	8	神経伝達物質と受容体	
	9	中枢神経系の分類と機能、反射	
	10	脊髄、脊髄内の伝導路	
	11	脳幹、小脳、視床、視床下部の働き	
	12	脳の働き(機能局在・高次脳機能)	
	13	脳波、脳脊髄液	
	14	末梢神経系(脳神経・脊髄神経)	
	15	自律神経系(交感神経・副交感神経)	
	16	自律神経系(神経伝達物質と受容体)	
	17	自律神経に關与する反射	
	18	骨格筋の構造と働き	
	19	筋収縮の仕組み、筋エネルギー供給の仕組み	
	20	心筋と平滑筋の働き	
	21	骨格筋の神経支配	
	22	運動の調節(脊髄)	
	23	運動の調節(小脳・大脳基底核・大脳皮質)	
	24	錐体路系と錐体外路系、発声と言語	
	25	感覚の分類と一般的性質、体性感覚(皮膚感覚・深部感覚・伝導路)、内臓感覚	
	26	痛覚(分類・内因性発痛物質・痛みの抑制系)	
	27	味覚と嗅覚(性質・受容器と伝導路)	
	28	聴覚と平衡感覚(性質・受容器と伝導路)	
	29	視覚(性質・受容器と伝導路)	
	30	生体の防御機構	
		身体活動の協調	

成績評価	筆記試験
評価基準	60点以上(100点満点)

分 野	専門基礎分野		
教育内容	保健医療福祉とあん摩マッサージ指圧、はり及びきゅうの理念		
講義名	医療概論		
授業方法	講 義		
単位数	2 単位		
時間数	4 0 時間		
学 科	東洋医療学科	配当年次	1 年
必修・選択区分	必 修		
実務経験	はり師、きゅう師		

講義内容・目標	「医療」の全体像を歴史・論理・倫理の観点から考察することが出来る。		
授業計画	1	ガイダンス(全体の概要)	
	2	医学史序説	
	3	医学史の意義と特質	
	4	" (古代～中世)	
	5	" (ルネサンス～18 世紀)	
	6	" (19 世紀～現代)	
	7	" (古代インド医学)	
	8	" (中国医学)	
	9	" (日本医学)	
	10	近代医学の課題	
	11	東洋医学の課題	
	12	現代の医療制度(医療従事者と医療施設)	
	13	現代の医療と医療経済	
	14	医療保険の仕組み	
	15	公的医療負担	
	16	介護サービス行政	
	17	倫理を学ぶ意義	
	18	医療倫理	
	19	バイオエシックス	
	20	施術者の倫理	

成績評価	筆記試験
評価基準	6 0 点以上 (1 0 0 点満点)

分 野	専門分野		
教育内容	基礎あん摩マッサージ指圧学		
講義名	あん摩マッサージ指圧理論		
授業方法	講 義		
単位数	4 単位		
時間数	80 時間		
学 科	東洋医療学科	配当年次	1 年
必修・選択区分	必 修		
実務経験	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師		

講義内容・目標	理論で習得した専門的知識をマッサージ施術に役立て（施術の目的や施術方法など）各疾患に対する施術方法を異にする能力を養い、治療方針の決定、予後の判定など確実に行える十分な医学的知識を兼備しているマッサージ師の育成を目標としている。		
授業計画	1	授業内容の説明	
	2	あん摩の意義と沿革	
	3	マッサージの意義と沿革	
	4	指圧の意義と沿革	
	5	あん摩の基本手技とその作用（軽擦法・揉捏法・叩打法・振せん法・曲手・圧迫法・運動法）	
	6	マッサージの基本手技と作用（軽擦法・強擦法・揉捏法・叩打法・振せん法・圧迫法）	
	7	指圧の基本手技とその作用（押圧操作・運動操作・反射作用・矯正作用など）	
	8	あん摩マッサージ指圧の生体作用の機転の一般（受容器・神経経路・痛覚伝導・痛みのメカニズム）	
	9	循環系に及ぼす作用（心臓・血管リンパ管・血液）	
	10	神経系に及ぼす作用（体性神経・知覚神経・運動神経）	
	11	自律神経に及ぼす作用（間脳の機能・交感神経とアドレナリン・ストレス学説など）	
	12	皮膚に及ぼす作用	
	13	筋に及ぼす作用	
	14	関節に及ぼす作用	
	15	呼吸器に及ぼす作用	
	16	全身に及ぼす作用	
	17	運動法が生体に及ぼす作用（一般・他動・自動・自動介助・抵抗・治療体操など）	
	18	あん摩マッサージ指圧の治療効果（鎮静・興奮・反射・矯正・誘導作用）	
	19	治療効果（五大作用）を利用したの疾病施術プログラムの作成	
	20	東洋医学の健康観（十四経脈・臓腑・経穴など）	
	21	古法あん摩（導引口訣鈔・按摩手引・按腹図解の解釈と実技）	
	22	医療マッサージと保健マッサージ	
	23	産業マッサージとスポーツマッサージ（目的・施術方法など）	
	24	美容マッサージ（肌のターンオーバーの乱れ・女性ホルモン・便秘・ほうれい線・運動法など）	
	25	乳房マッサージ（目的・母乳とホルモン・施術時期・妊娠中の乳房ケア・適応禁忌の判断など）	
	26	結合織マッサージ（定義・沿革・原理と作用・徒手検査法・反応帯・基本手技・手技構成など）	
	27	物理療法の一般	
	28	電気療法（生体に対する作用・種類・波形・低周波療法の実際、禁忌症と適応症・注意事項など）	
	29	光線療法（紫外線療法・日光浴療法の作用と注意事項と禁忌及び適応症などについて）	
	30	温熱療法（使用の仕方・作用・種類・注意事項・禁忌症と適応症などについて）	
	31	水治療法（使用の仕方・作用・種類・注意事項・禁忌症と適応症などについて）	
	32	表在熱と深部熱及び湿性と乾性、又は急性期と亜急性期、慢性期の温熱の使い分け	
	33	温泉療法と運動療法（目的・適応と禁忌・人工骨頭置換術や人工膝関節術後のプログラムなど）	
	34	適応症と禁忌症（絶対禁忌症と相対禁忌症の定義と疾患名）	
	35	施術上の注意（手指消毒・滑剤・適量刺激・姿勢・施術時間の長短と回数・衣服など）	
	36	施術所として必要な条件（施術室・器械器具・鍼灸接骨院での開業方法）	
	37	施術所でのリスク管理（施術室の構造・精神的リスク・人員配置・定期点検・転倒など）	
	38	あん摩マッサージ指圧の過誤（揉み返し・肋骨骨折・鎖骨骨折・筋力低下・ADLの低下など）	
	39	徒手筋力検査や関節可動域検査及び日常生活動作検査など	
	40	まとめ	

成績評価	筆記試験
評価基準	60 点以上（100 点満点）

分 野	専門分野		
教育内容	基礎はり学、基礎きゅう学		
講義名	はり・きゅう理論		
授業方法	講 義		
単位数	3 単位		
時間数	60 時間		
学 科	東洋医療学科	配当年次	1 年
必修・選択区分	必 修		
実務経験	はり師、きゅう師		

講義内容・目標	鍼灸施術の基礎となる科学的治効理論を明らかにして、鍼灸施術のもつ意義の重要性を理解し、鍼灸施術を効果的に行うことができる能力を養う。また科学的思考に立って鍼灸施術をとらえる態度を養い、さらに研究の必要性を実感させることを目指す。		
授業計画	1	第1章 概 論 1. 鍼灸施術の意義	
	2	” 2. 鍼灸施術の特徴	
	3	第2章 鍼の基礎知識 1. 用具	
	4	” 2. 古代九鍼	
	5	第3章 刺鍼の方式と術式 1. 刺鍼の方式	
	6	” 2. 刺鍼の術式	
	7	第4章 特殊鍼法 小児鍼	
	8	” 皮内鍼、円皮鍼、灸頭鍼、耳鍼	
	9	” 低周波鍼通電療法、頭鍼療法	
	10	第5章 灸の基礎知識 1. 灸の材料～2. 線香	
	11	第6章 灸術の種類 1. 有痕灸	
	12	” ” 2. 無痕灸	
	13	第7章 鍼灸の臨床応用 1. 刺激量	
	14	” ” 2. 感受性	
	15	” ” 3. 鍼灸療法の適応症	
	16	” ” 4. 鍼灸療法の禁忌	
	17	第8章 リスク管理 1. リスク管理の基本	
	18	” ” 2. 過誤と副作用	
	19	” ” 3. 鍼療法の過誤と副作用	
	20	” ” 4. 灸療法の過誤と副作用	
	21	” ” 5. 感染症対策	
	22	第9章 鍼灸治効の基礎 1. 痛み感覚の受容と伝導	
	23	” ” 2. 温度感覚の受容と伝達	
	24	” ” 3. 触圧感覚の受容と伝達 4. 筋の伸張刺激	
	25	” ” 5. 鍼灸刺激と反射	
	26	” ” 6. 鍼鎮痛	
	27	” ” 7. 刺激と反応	
	28	第10章 一般治効理論 自律神経、生体防御機構に及ぼす鍼灸刺激の影響	
	29	” ”	
	30	まとめ	

成績評価	筆記試験
評価基準	60 点以上（100 点満点）

分 野	専門分野		
教育内容	基礎あん摩マッサージ指圧学、基礎はり学、基礎きゅう学		
講義名	東洋医学概論		
授業方法	講 義		
単位数	2 単位		
時間数	40 時間		
学 科	東洋医療学科	配当年次	1 年
必修・選択区分	必 修		
実務経験	はり師、きゅう師		

講義内容・目標	東洋医学における人体の見方や治療論について学ぶ。また東洋医学の基礎となる陰陽学説、五行学説について学ぶ。		
授業計画	1	東洋医学概論 (I)	
	2	東洋医学における人体の見方	
	3	自然と人の一体性について 気の思想と陰陽	
	4	陰陽の概要 陰陽の属性 自然界における陰陽 人体における陰陽	
	5	五行の概要 五行における自然界と人体	
	6	人体の統一性について 五臓とその関連領域	
	7	人体の個性について 病証 病因	
	8	虚実について 虚証と実証 補虚瀉実(補法、瀉法)	
	9	正気と邪気 邪気の種類 扶正去邪	
	10	標本について 標治と本治	
	11	標本について 標本と治則	
	12	随証療法 四診	
	13	陰陽学説 人体における陰陽	
	14	陰陽学説 陰陽の相互関係(対立、互根、制約、消長、転化)	
	15	五行学説 自然界における五行配当	
	16	五行学説 自然界における五行配当	
	17	五行学説 人体における五行配当	
	18	五行学説 人体における五行配当	
	19	五行の関係(相生、相克、相乗、相侮)	
	20	生理物質(気・血・津液)について	
		まとめ	

成績評価	筆記試験
評価基準	60 点以上履修認定

分 野	専門分野		
教育内容	基礎あん摩マッサージ指圧学、基礎はり学、基礎きゅう学		
講義名	取穴基礎		
授業方法	講 義		
単位数	2 単位		
時間数	4 0 時間		
学 科	東洋医療学科	配当年次	1 年
必修・選択区分	必 修		
実務経験	はり師、きゅう師		

講義内容・目標	多数の人体の体表指標について、実際に触知しながら正確に取穴出来るようになることを目標とする。	
授業計画	1	解剖学的肢位、体表指標
	2	骨度法・同身寸法
	3	肩関節の視診・骨の触診・軟部組織の触診
	4	肩関節付近の経穴の取穴実技
	5	肘関節の視診・骨の触診・軟部組織の触診
	6	肘関節付近の経穴の取穴実技
	7	手関節の視診・骨の触診・軟部組織の触診
	8	手関節付近の経穴の取穴実技
	9	股関節の視診・骨の触診・軟部組織の触診
	10	股関節付近の経穴の取穴実技
	11	膝関節の視診・骨の触診・軟部組織の触診
	12	膝関節付近の経穴の取穴実技
	13	足関節の視診・骨の触診・軟部組織の触診
	14	足関節付近の経穴の取穴実技
	15	頸椎・胸椎の視診・骨の触診・軟部組織の触診
	16	頸椎・胸椎付近の経穴の取穴実技
	17	腰椎・仙骨の視診・骨の触診・軟部組織の触診
	18	腰椎・仙骨付近の経穴の取穴実技
	19	頭部の視診・骨の触診・軟部組織の触診
	20	頭部付近の経穴の取穴実技

成績評価	筆記試験
評価基準	6 0 点以上（1 0 0 点満点）

分 野	専門分野		
教育内容	基礎あん摩マッサージ指圧学、基礎はり学、基礎きゅう学		
講義名	基礎経絡経穴学		
授業方法	講 義		
単位数	4 単位		
時間数	80 時間		
学 科	東洋医療学科	配当年次	1 年
必修・選択区分	必 修		
実務経験	はり師、きゅう師		

講義内容・目標		正経十二経脈の経脈名・経穴名・要穴を覚える。また、要穴は取穴部位も覚え、正確に取穴できることを目標とする。
授業計画		基礎経絡経穴学 (I)・(II)
	1	経穴学概論 臓腑の概要
	2	経穴学概論 経絡の概要
	3	経穴学概論 経穴の概要
	4	経脈と経穴 手太陰肺経
	5	〃 手陽明大腸経
	6	〃 足陽明胃経
	7	〃 〃
	8	〃 足太陰脾経
	9	〃 手少陰心経
	10	〃 手太陽小腸経
	11	〃 足太陽膀胱経
	12	〃 〃
	13	〃 足少陰腎経
	14	〃 手厥陰心包経
	15	〃 手少陽三焦経
	16	〃 足少陽胆経
	17	〃 〃
	18	〃 足厥陰肝経
	19	〃 まとめ
	20	要穴の概略 五要穴
	21	〃 五俞穴・五行穴
	22	要 穴 手太陰肺経
	23	〃 手陽明大腸経
	24	取 穴 手太陰肺経・手陽明大腸経の要穴
	25	要 穴 足陽明胃経
	26	〃 足太陰脾経
	27	取 穴 足陽明胃経・足太陰脾経の要穴
	28	要 穴 手少陰心経
	29	〃 手太陽小腸経
	30	取 穴 手少陰心経・手太陽小腸経の要穴
	31	要 穴 足太陽膀胱経
	32	〃 足少陰腎経
	33	取 穴 足太陽膀胱経・足少陰腎経の要穴
	34	要 穴 手厥陰心包経
	35	〃 手少陽三焦経
	36	取 穴 手厥陰心包経・手少陽三焦経の要穴
	37	要 穴 足少陽胆経
	38	〃 足厥陰肝経
	39	取 穴 足少陽胆経・足厥陰肝経の要穴
	40	要 穴 まとめ

成績評価	筆記試験
評価基準	60 点以上 (100 点満点)

分 野	専門分野		
教育内容	実 習		
講義名	あん摩マッサージ指圧実技		
授業方法	実 技		
単位数	3 単位		
時間数	9 0 時間		
学 科	東洋医療学科	配当年次	1 年
必修・選択区分	必 修		
実務経験	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師		

講義内容・目標	あん摩マッサージ指圧に適した指つくりと耐久力やマッサージ基本手技の理解と習得、機能解剖学を踏まえた各関節、各部位の施術方法、五大作用を目的とする各疾患の施術方法や実技など、学園創設の目的である即戦力となるマッサージ師を養成する事を目標とする。	
授業計画	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45	あん摩マッサージ指圧実技（Ⅰ） 実技内容の説明・施術者の心得・施術の注意事項・圧迫及び押圧の指の形や指の耐久力の習得 施術前の準備及び施術前の術者の準備運動などの習得 手の名称や身体各部の解剖学的名称、術者の基本姿勢と位置、施術手と指示手の習得 あん摩の基本手技の習得（軽擦法と揉捏法の方法と種類及び作用や注意事項など） あん摩の基本手技の習得（圧迫法と振せん法の方法と種類及び作用や注意事項など） あん摩の基本手技の習得（叩打法と曲手・運動法の方法と種類及び作用や注意事項など） 指圧の押圧法と押圧の程度の習得（押圧操作と運動操作など） 指圧の基本手技の習得（基本圧法：通常圧法・衝圧法・持続圧法・吸引圧法・振動圧法など） 乾性マッサージの基本手技の習得（軽擦法と揉捏法の方法と種類及び作用や注意事項） 乾性マッサージの基本手技の習得（強擦法と圧迫法の方法と種類及び作用や注意事項） 乾性マッサージの基本手技の習得（叩打法と振せん法の方法と種類及び作用や注意事項） 各種検査法の実践習得（MMT：ROMーT：ADLーT など） 手指：手掌部のマッサージ（施術方法と骨名称や筋の触知、手の役目を習得） 手背：手関節部のマッサージ（施術方法と骨名称や筋触知、運動法などの習得） 前腕部のマッサージ（施術方法と骨の名称や筋の触知などの習得） 前腕全体のマッサージ（施術方法と神経・筋伸展法や前腕の運動法などの習得） 肘関節のマッサージ（施術方法と肘関節の機能解剖及び運動法などの習得） 上腕部のマッサージ（施術方法と骨の名称や筋の触知などの習得） 肩関節のマッサージ（施術方法と肩関節の機能解剖及び骨筋の触知、運動法などの習得） 足趾・足底部のマッサージ（施術方法や足の役目、骨筋肉の触知、運動法などを習得） 足背・足関節部のマッサージ（施術方法や骨筋の触知、足関節の動き、運動法など） 下腿部前外側のマッサージ（施術方法や骨筋の触知などの習得） 下腿後側のマッサージ（施術方法や骨筋の触知、筋伸展法などの習得） 膝関節部のマッサージ（施術方法や膝関節や膝蓋骨の機能的役割、骨筋の触知、運動法など） 大腿部のマッサージ（施術方法や骨筋の触知、筋伸展法などの習得） 股関節部のマッサージ（施術方法や骨筋の触知、運動法などの習得） 臀部のマッサージ（施術方法や骨・筋の触知及び硬結の探す、圧迫によるひびきなどの習得） 背部のマッサージ（施術方法や骨筋の触知、擦過による反応、腰部の機能解剖、運動法や伸展法など） 頸部のマッサージ（施術方法や骨筋の触知や運動法、ネグリー伸頭法、圧迫によるひびきなどの習得） 胸部のマッサージ（施術方法や筋骨の触知、SP02を確認して呼吸助助手技や横隔膜刺激手技等の習得） 腹部マッサージ（施術方法や目的、注意事項、骨筋の触知や各臓器の触知などの習得） 顔面部マッサージ（施術方法や注意事項、基本の手さばき、表情筋運動、筋骨の触知など習得） 頭部のマッサージ（施術方法や骨の触知、注意事項などの習得） 湿性マッサージの体験（クリームまたはオイルを使用しての湿性マッサージなどの習得） マッサージの五大作用を目的とした実技（物理療法を含め神経痛・運動麻痺の施術方法などを習得） マッサージの五大作用を目的とした実技（誘導作用を利用し浮腫のリンパマッサージ施術の習得） マッサージの五大作用を目的とした実技（矯正作用を利用した関節拘縮のマッサージ施術の習得） スポーツマッサージの施術方法（背部や下肢に疲労しやすい筋の触知、傷害部位などの習得） 美容マッサージの施術方法（乾性及び湿性を利用しての注意事項などを習得） 乳房マッサージの施術方法（注意事項や目的、適応か不適かの判断、温湿布などの習得） 結合識マッサージの習得（基本手技や徒手検査法、異常の判断、手技の組み合わせなどを習得） 物理療法の体験（物理療法の扱い方、注意事項、適応症、禁忌症を理解する） 古法あん摩の按摩手引の按摩術の稽古を習得（目的、経絡の流注、各術を習得） 古法あん摩の按腹図解の家法按腹十三術の習得（目的、施術方法などの習得） 腹臥位及び仰臥位での全身マッサージの施術（施術方法などの習得） 頸部、腰部、六代関節の整形外科手技療法の習得（肩甲骨調整・骨盤調整、関節授動法など）
成績評価	実技試験	
評価基準	60点以上合格（100点満点）	

分 野	専門分野		
教育内容	実 習		
講義名	はりきゅう実技		
授業方法	実 技		
単位数	6 単位		
時間数	1 8 0 時間		
学 科	東洋医療学科	配当年次	1 年
必修・選択区分	必 修		
実務経験	はり師、きゅう師		

講義内容・目標	痛みなく、スムーズな刺鍼操作を身につけ、目的の深度・角度に刺鍼すること、またお灸の安全操作を身に付け、一定の大きさリズムで施灸できることを目的とする。			
授業計画	1	はり実技（Ⅰ） ガイダンス（授業概要・使用道具の説明）	1	きゅう実技（Ⅰ） お灸について 2) 施術道具の説明
	2	片手挿管法	2	灸の効果について
	3	刺鍼手順	3	艾炷の作成
	4	旋撚刺入	4	・艾炷について、艾のひねり方
	5	鍼による副作用と過誤	5	・大きさ、形について（米粒大・半米粒大）
	6	衛生管理・消毒	6	板上施灸
	7	片手挿管・刺鍼手順の確認	7	〃
	8	切皮（人体施鍼）	8	〃
	9	旋撚刺入（人体施鍼）	9	〃
	10	下腿への刺鍼練習 ・相互評価	10	〃
	11	・下腿前面（外側）への直刺	11	線香の持ち方、点火の方法・注意点
	12	・下腿前面（内側）への斜刺	12	一連の施灸操作について
	13	前腕への刺鍼練習 ・相互評価	13	連続施灸
	14	・前腕への直刺	14	紙上施灸
	15	・前腕への斜刺	15	〃
	16	雀啄術	16	艾炷の硬さ・大きさ
	17	刺鍼転向法	17	点火
	18	屋漏術	18	八分灸
	19	下腿への横刺	19	自分の身体への施灸
	20	頭皮への横刺	20	〃
	21	下肢への刺鍼練習	21	〃
	22	・大腿	22	〃
	23	・下腿	23	〃
	24	・膝関節周囲	24	八分灸
	25	・足関節周囲	25	〃
	26	・足背	26	九分灸
	27	上肢への刺鍼練習	27	糸状灸、温度の調整、熱感の確認
	28	・上腕	28	〃
	29	・上腕	29	〃
	30	・前腕	30	〃
	31	・前腕	31	〃
	32	・肘関節周囲	32	〃
	33	・肘関節周囲	33	〃
	34	・手関節周囲	34	他人の身体への施灸
	35	・手関節周囲	35	・伏臥位（背部）、
	36	・手背	36	・伏臥位（腰部）、
	37	体幹への刺鍼練習	37	・仰臥位（下肢）、
	38	・腰部	38	・仰臥位（上肢）、
	39	・腹部	39	・仰臥位（腹部）
	40	・頸部	40	〃
	41	脈診と原穴への刺鍼練習	41	〃
	42	・六部定位の脈診	42	〃
	43	・原穴診	43	〃
	44	腹診・背侯診と俞募穴への刺鍼練習	44	その他の灸術
	45	頭・顔面部への刺鍼練習	45	・隔物灸、棒灸、温筒灸

成績評価	実技試験
評価基準	60点以上（100点満点）

分 野	専門分野		
教育内容	科学的思考の基盤、人間と生活		
講義名	健康科学		
授業方法	講 義		
単位数	2 単位		
時間数	3 0 時間		
学 科	東洋医療学科	配当年次	2 年
必修・選択区分	必 修		
実務経験			

講義内容・目標	生体物質の重要性を学ぶことで、「健康」について様々な角度から考察することができる。	
授業計画	1	ガイダンス（全体の概要）
	2	人体の構成
	3	タンパク質の構造
	4	タンパク質の機能
	5	糖質の構造
	6	糖質の機能
	7	脂質の構造
	8	脂質の機能
	9	核酸の構造
	10	核酸の機能
	11	酵素の特徴と機能
	12	ビタミンの機能
	13	水、無機質の機能
	14	栄養素の消化吸収
	15	まとめ（生体物質と「健康」）

成績評価	筆記試験
評価基準	6 0 点以上（1 0 0 点満点）

分 野	基礎分野		
教育内容	科学的思考の基盤、人間と生活		
講義名	心理学		
授業方法	講 義		
単位数	2 単位		
時間数	3 0 時間		
学 科	東洋医療学科	配当年次	2 年
必修・選択区分	必 修		
実務経験			

講義内容・目標	心理学の基礎について幅広く学ぶ。人の心の成長と発達、心の健康について理解する。援助職におけるコミュニケーションと心理的援助の方法と実際について学ぶ。	
授業計画	1	オリエンテーション、心理学の歴史と発展
	2	知覚
	3	学習
	4	記憶
	5	発達
	6	青年
	7	性格とパーソナリティ検査
	8	自己
	9	家族
	10	心の病理と健康
	11	社会
	12	様々な心理療法
	13	医療の場での話の聴き方
	14	コミュニケーションと実践ワーク
	15	まとめと要点の復習

成績評価	筆記試験
評価基準	6 0 点以上（1 0 0 点満点）

分 野	専門基礎分野		
教育内容	疾病の成り立ち、予防及び回復の促進		
講義名	病理学概論		
授業方法	講 義		
単位数	3 単位		
時間数	60 時間		
学 科	東洋医療学科	配当年次	2 年
必修・選択区分	必 修		
実務経験	はり師、きゅう師		

講義内容・目標	病理学的知識を通して人体の正常構造や機能を系統的に学んだ基礎医学系科目と臨床医学的科目とリンクできる知識を身につける。	
授業計画	1	ガイダンス（全体の概要）
	2	病理学とはどのような学問か
	3	疾病についての基本的な考え方
	4	病因論（素因、内分泌障害、物理的要因）
	5	〃（化学的外因）
	6	〃（生物的外因）
	7	循環障害（充血、うっ血）
	8	〃（貧血、虚血）
	9	〃（出血、血栓）
	10	〃（塞栓、梗塞）
	11	〃（浮腫、ショック）
	12	退行性病変（萎縮、変性）
	13	〃（壊死）
	14	〃（肥大、増殖）
	15	進行性病変（再生、化生）
	16	〃（移植、創傷治癒、異物の処理）
	17	炎 症（分類、経過）
	18	〃（増殖性、特異性）
	19	腫 瘍（腫瘍とは）
	20	〃（良性、悪性）
	21	免疫異常（細胞性免疫、液性免疫）
	22	アレルギー（Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ）
	23	免疫不全（先天性、後天性）
	24	自己免疫異常
	25	〃（全身性エリテマトーデス）
	26	〃（慢性関節リウマチ、橋本病）
	27	先天異常（総論）
	28	〃（遺伝子疾患、単純遺伝性の異常）
	29	〃（遺伝子疾患、多因子性の異常）
	30	〃（染色体異常）

成績評価	筆記試験
評価基準	60 点以上（100 点満点）

分 野	専門基礎分野		
教育内容	疾病の成り立ち、予防及び回復の促進		
講義名	臨床医学総論		
授業方法	講 義		
単位数	4 単位		
時間数	80 時間		
学 科	東洋医療学科	配当年次	2 年
必修・選択区分	必 修		
実務経験	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師		

講義内容・目標	適切な診察法を理解し、主たる症候に精通することを目標とする。	
授業計画	1	診察の意義、診察の心得、関連用語、医療面接
	2	視診、触診、打診、聴診、生命徴候
	3	顔貌・顔色、精神状態、言語
	4	身体計測、姿勢と体位、歩行
	5	皮膚、粘膜、皮下組織、爪の状態
	6	リンパ節、頭部、顔面の診察
	7	眼の診察（視野、眼瞼下垂、眼球突出、瞳孔異常、複視、ホルネル徴候、眼振、眼底所見）
	8	鼻の診察、耳の診察、口腔の診察
	9	頸部の診察、胸部の診察、乳房の診察、肺・胸膜の診察
	10	心臓の診察、腹部の診察（皮膚線条、腹壁静脈の怒張、腹部の膨隆と陥凹）、腹膜刺激症状
	11	腹部の診察（腹水、グル音、鼓腸、鼓音）、腹部内臓の触診、直腸、肛門、外性器の診察
	12	脊柱の診察、関連痛
	13	上肢の変形
	14	下肢の変形
	15	感覚神経の経路、種類、障害
	16	反射の種類、反射検査、錐体路障害
	17	脳神経系の障害、髄膜刺激症状、高次脳機能検査
	18	運動麻痺、錐体路・錐体外路・下位運動ニューロン障害
	19	筋肉の異常、不随運動
	20	協調運動、起立検査、歩行検査
	21	関節可動域検査、徒手筋力検査、日常生活動作
	22	徒手による整形外科的検査法 … 頸部、胸部、肩関節
	23	徒手による整形外科的検査法 … 頸部、胸部、肩関節
	24	徒手による整形外科的検査法 … 腰、下肢、股関節、膝関節
	25	救急時、小児、女性、高齢者の診察
	26	臨床検査法 … 尿検査、便検査、血液検査
	27	臨床検査法 … 血液生化学検査
	28	生理学的検査、画像検査
	29	頭痛、顔面痛、歯痛、眼精疲労、鼻閉・鼻汁
	30	めまい、耳鳴り、難聴、咳・痰、息切れ（呼吸困難）
	31	動悸、胸痛、腹痛、便秘・下痢
	32	月経異常、不正性器出血、排尿障害、乏尿・無尿、多尿
	33	浮腫、肩こり、頸肩腕痛、肩関節痛、上肢痛、腰下肢痛、関節痛
	34	運動麻痺、食欲不振、肥満、やせ（るいそう）
	35	発熱、のぼせ・冷え、不眠、疲労・倦怠
	36	発疹、ショック、出血傾向、易感染性、貧血
	37	眼振、口渇、嘔声、嚥下困難、血痰・喀血
	38	胸水、悪心・嘔吐、吐血・下血、意識障害
	39	治療学
	40	臨床心理

成績評価	筆記試験
評価基準	60 点以上（100 点満点）

分 野	専門基礎分野		
教育内容	保健医療福祉とあん摩マッサージ指圧、はり及びきゅうの理念		
講義名	衛生学・公衆衛生学		
授業方法	講 義		
単位数	3 単位		
時間数	6 0 時間		
学 科	東洋医療学科	配当年次	2 年
必修・選択区分	必 修		
実務経験	はり師、きゅう師		

講義内容・目標	健康増進を図るための基本的な手法や疾病の成立条件と予防法を学び、あん摩マッサージ指圧師、はり、きゅう師の診療活動に必要な、病気の予防や健康増進の知識と技術およびこれらが展開される医療・保健福祉等の法制について理解できる。		
授業計画	1	衛生学・公衆衛生学：意義とその歴史	
	2	〃：活動と意義	
	3	健康：健康の概要 健康管理	
	4	健康：健康増進 衛生行政 医療制度 医療保障	
	5	ライフスタイルと健康：食品と栄養	
	6	〃：食品と栄養 運動と健康	
	7	環境と健康：環境とは	
	8	〃：日常生活環境(物理学的・化学的環境要因) 環境問題	
	9	〃：公害 地球規模の環境問題	
	10	産業保健：労働衛生行政 労働環境と健康 労働災害・業務上疾病とその対策	
	11	精神保健：精神の健康 精神障害の現状と分類	
	12	〃：精神保健福祉法(医療・保護)	
	13	母子保健：母子保健の意義・母体・乳幼児の健康	
	14	〃：乳幼児の健康 少子化問題と子育て支援	
	15	成人・高齢者保健：加齢と老化 生活習慣病の特徴と対策	
	16	〃：高齢者の保健福祉対策 介護保険	
	17	感染症とその対策：感染症の意義と種類 感染予防の原則 免疫	
	18	〃：感染症の種類	
	19	〃：免疫 免疫とその種類	
	20	〃：免疫 予防接種	
	21	消毒法：消毒の種類 消毒法一般 消毒の種類 物理的消毒法	
	22	〃：消毒の種類 化学的消毒法	
	23	〃：消毒の実際 医療廃棄物	
	24	疫 学：疫学概念と意義 疾病の頻度の測定	
	25	〃：疫学調査研究 記述疫学	
	26	〃：疫学調査研究 分析疫学	
	27	保健統計：保健統計の意義 統計と意義	
	28	〃：主要な保健統計指標	
	29	総まとめ	
	30	〃	

成績評価	筆記試験
評価基準	6 0 点以上 (1 0 0 点満点)

分 野	専門分野		
教育内容	保健医療福祉とあん摩マッサージ指圧、はり及びきゅうの理念		
講義名	関係法規		
授業方法	講 義		
単位数	1 単位		
時間数	20 時間		
学 科	東洋医療学科	配当年次	2 年
必修・選択区分	必 修		
実務経験	はり師、きゅう師		

講義内容・目標	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師として業務に従事するうえで必要な事項と、医事、福祉関係の法規を理解する。	
授業計画	1	法とは何か
	2	免許と試験
	3	業務の独占と業務の範囲
	4	施術所について
	5	罰則
	6	医事法規と医療制度
	7	薬事法規
	8	衛生関係法規
	9	社会福祉関係法規
	10	社会保険関係法規

成績評価	筆記試験
評価基準	60 点以上（100 点満点）

分 野	専門分野		
教育内容	基礎あん摩マッサージ指圧学、基礎はり学、基礎きゅう学		
講義名	東洋医学概論		
授業方法	講 義		
単位数	4 単位		
時間数	8 0 時間		
学 科	東洋医療学科	配当年次	2 年
必修・選択区分	必 修		
実務経験	はり師、きゅう師		

講義内容・目標		東洋医学的な病態把握ができるための基礎知識を習得することを目標とする。
授業計画	1	東洋医学概論（Ⅱ）
	2	東洋医学の生理と病理
	3	精の生理
	4	精の病理
	5	気の生理
	6	気の病理
	7	血の生理
	8	血の病理
	9	津液の生理
	10	津液の病理
	11	精気血津液の相互関係
	12	神の生理
	13	神の病理
	14	陰陽の生理
	15	陰陽の病理
	16	蔵象学説
	17	五臓
	18	六腑
	19	肝系統
	20	心系統
	21	脾系統
	22	肺系統
	23	腎系統
	24	三焦
	25	五臓の相互関係
	26	経絡の生理
	27	経絡の病理
	28	病因と病機
	29	望診
	30	舌診
	31	聞診
	32	問診の進め方
	33	寒熱、飲食の問診
	34	睡眠、二便の問診
	35	身体各部の問診
	36	汗、疼痛の問診
	37	女性、既往歴、家族歴の問診
	38	腹診
	39	切経
	40	脈状診
		六部定位脉診

成績評価	筆記試験
評価基準	6 0 点以上（1 0 0 点満点）

分 野	専門分野		
教育内容	臨床あん摩マッサージ指圧学，臨床はりきゅう学		
講義名	臨床経絡経穴学		
授業方法	講 義		
単位数	4 単位		
時間数	8 0 時間		
学 科	東洋医療学科	配当年次	2 年
必修・選択区分	必 修		
実務経験	はり師，きゅう師		

講義内容・目標		各経穴の部位・取り方ができるようになる。経穴の鍼灸用法・主治症が臨床で応用できる。
授業計画		臨床経絡経穴学（Ⅰ）
	1	第1章 経絡・経穴の基礎
	2	第2章 経脈・経穴
	3	十四経脈とその経穴
		1. 督 脈
	4	〃
	5	2. 任 脈
	6	〃
	7	〃
	8	3. 肺 経
	9	4. 大腸経
	10	〃
	11	5. 胃 経
	12	〃
	13	〃
	14	6. 脾 経
	15	〃
	16	7. 心 経
	17	〃
		8. 小腸経
	18	〃
	19	〃
	20	9. 膀胱経
	21	〃
	22	〃
	23	〃
	24	〃
	25	10. 腎 経
	26	〃
	27	11. 心包経
	28	12. 三焦経
	29	〃
	30	〃
	31	13. 胆 経
	32	〃
	33	〃
	34	14. 肝 経
	35	〃
	36	奇経八脈
	37	奇 穴
	38	〃
	39	〃
	40	第3章 経絡・経穴の現代的研究

成績評価	筆記試験
評価基準	60点以上（100点満点）

分 野	専門分野		
教育内容	臨床あん摩マッサージ指圧学、臨床はり学、臨床きゅう学		
講義名	臨床経絡経穴学		
授業方法	講 義		
単位数	2 単位		
時間数	4 0 時間		
学 科	東洋医療学科	配当年次	2 年
必修・選択区分	必 修		
実務経験	はり師、きゅう師		

講義内容・目標	病態に対して治療穴が選択できる。また、補瀉を選択できることを目標とする。		
授業計画	1	臨床経絡経穴学（Ⅱ）	
	2	手の太陰肺経 効能と主治	
	3	" "	
	4	手の陽明大腸経 効能と主治	
	5	" "	
	6	足の陽明胃経 効能と主治	
	7	" "	
	8	足の太陰脾経 効能と主治	
	9	" "	
	10	手の少陰心経 効能と主治	
	11	" "	
	12	手の太陽小腸経 効能と主治	
	13	足の少陰腎経 効能と主治	
	14	" "	
	15	足の太陽膀胱経 効能と主治	
	16	手の厥陰心包経 効能と主治	
	17	" "	
	18	手の少陽三焦経 効能と主治	
	19	足の少陽胆経 効能と主治	
	20	足の厥陰肝経 効能と主治	
		" "	

成績評価	筆記試験
評価基準	6 0 点以上（1 0 0 点満点）

分 野	専門分野		
教育内容	臨床あん摩マッサージ指圧学、臨床はり学、臨床きゅう学		
講義名	臨床東洋医学		
授業方法	講 義		
単位数	4 単位		
時間数	80 時間		
学 科	東洋医療学科	配当年次	2 年
必修・選択区分	必 修		
実務経験	あん摩マッサージ指圧，はり師，きゅう師		

講義内容・目標		鍼灸治療のアプローチ
授業計画	1	臨床東洋医学（Ⅰ） 気血津液の働きと病証
	2	臓腑の働きと病証
	3	舌診・脈診
	4	口内炎
	5	胃痛・食道炎・便秘
	6	不眠症
	7	痔疾患
	8	肩こり
	9	腰痛
	10	奇経治療
	11	浮腫
	12	気管支喘息
	13	アレルギー性鼻炎
	14	アトピー性皮膚炎
	15	前立腺疾患
	16	冷え性
	17	生理痛・不妊症・子宮筋腫
	18	鬱症
	19	耳鳴り・難聴・眼疾患
	20	糖尿病
	21	肺の病証およびその症状と治療
	22	〃
	23	〃
	24	〃
	25	心の病証およびその症状と治療
	26	〃
	27	〃
	28	〃
	29	脾の病証およびその症状と治療
	30	〃
	31	〃
	32	〃
	33	肝の病証およびその症状と治療
	34	〃
	35	〃
	36	〃
	37	腎の病証およびその症状と治療
	38	〃
	39	〃
	40	〃

成績評価	筆記試験
評価基準	60 点以上（100 点満点）

分 野	専門分野		
教育内容	社会あん摩マッサージ指圧学、社会はり学、社会きゅう学		
講義名	社会あはき学		
授業方法	講 義		
単位数	2 単位		
時間数	4 0 時間		
学 科	東洋医療学科	配当年次	2 年
必修・選択区分	必 修		
実務経験	はり師、きゅう師		

講義内容・目標	正確にスポーツ障害の評価を行えること、予防法、応急処置の方法などを一般のスポーツ選手に説明できることを目標とする。そして最終の目標は、その障害に対し鍼灸治療でいかに改善させるかを到達目標とする。		
授業計画	1	社会あはき学（Ⅰ）	
	2	ガイダンス、鍼灸治療の基本	
	3	シンスプリント	
	4	アキレス腱炎、シーバー病	
	5	下腿部の筋に対する伸展法、足部牽引性運動法	
	6	膝蓋靭帯炎、オスグッドシュラッター病	
	7	鵠足炎、腸脛靭帯炎	
	8	ハムストリングス肉離れ	
	9	梨状筋症候群、股関節障害	
	10	大腿部の筋に対する伸展法、膝部・股関節牽引性運動法	
	11	筋筋膜性腰痛	
	12	腰椎椎間板ヘルニア、腰椎分離症	
	13	胸郭出口症候群	
	14	体幹・頸部の伸展法	
	15	肩関節インピンジメント症候群、上腕二頭筋長頭腱炎	
	16	上腕部の筋に対する伸展法、肩関節牽引性運動法	
	17	上腕骨内・外側上顆炎	
	18	ドケルバン病、TFCC 損傷	
	19	肘・手関節の牽引運動法	
	20	前腕部の筋に対する伸展法	
		スポーツ障害のまとめ	

成績評価	筆記試験
評価基準	6 0 点以上（1 0 0 点満点）

分 野	専門分野		
教育内容	実習		
講義名	あん摩マッサージ指圧実技		
授業方法	実 技		
単位数	2 単位		
時間数	6 0 時間		
学 科	東洋医療学科	配当年次	2 年
必修・選択区分	必 修		
実務経験	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師		

講義内容・目標	正しい手の形を作り、母指の持久力を養い、長時間の施術に耐えうる指圧を身につける。また生体が整うような適量の圧度を理解して押圧できることを目標とする。		
授業計画	1	あん摩マッサージ指圧実技（Ⅱ）	
	2	指圧の歴史、成り立ちと発展、指圧の三原則	
	3	指圧の効果とは	
	4	正しい手の形（手掌押圧、母指押圧）	
	5	軽擦法、脊柱の触診、手掌押圧（督脈・肩甲間線の押圧）	
	6	手掌押圧（督脈・肩甲間線の押圧）、母指押圧（脊柱傍線）	
	7	母指押圧（脊柱傍線・肩甲間線の押圧）	
	8	〃 （脊柱傍線・肩甲間線、肩甲線の押圧）	
	9	押圧時の身体の移動と姿勢について、母指押圧（脊柱傍線・肩甲間線、肩甲線の押圧）復習	
	10	押圧時の関節肢位について、母指押圧（脊柱傍線・肩甲間線、肩甲線の押圧）復習	
	11	軽擦法、手掌押圧、母指押圧の復習	
	12	軽擦法、手掌押圧、母指押圧の相互評価	
	13	母指押圧（肩甲骨部、腸骨上縁部）、背部の母指押圧の復習	
	14	母指押圧（臀部）、背部の母指押圧の復習	
	15	母指押圧（下肢部）、背部の母指押圧の復習	
	16	下肢の運動操作（大腿前面伸展法、腰部伸展法）	
	17	母指押圧（後頭部）、背部の母指押圧の復習	
	18	母指押圧（前頭部・顔面）、背部の母指押圧の復習	
	19	母指押圧（頸部・前胸部）、背部の母指押圧の復習	
	20	母指押圧（腹部）、背部の母指押圧の復習	
	21	母指押圧（上肢）、背部の母指押圧の復習	
	22	母指押圧（下肢）、背部の母指押圧の復習	
	23	上肢・下肢の運動操作、背部の母指押圧の復習	
	24	緩圧法、衝圧法、背部の母指押圧の復習	
	25	伏臥位の指圧の総復習	
	26	仰臥位の指圧の総復習	
	27	側臥位の指圧（頸部・肩背部・腰殿部）	
	28	側臥位の指圧（上肢・下肢）	
	29	側臥位の指圧の総復習	
	30	垂直圧・持続圧・集中圧の確認（背部押圧）	
		四肢・腰部の運動操作の確認	

成績評価	実技試験
評価基準	6 0 点以上（1 0 0 点満点）

分 野	専門分野		
教育内容	実習		
講義名	あん摩マッサージ指圧実技		
授業方法	実 技		
単位数	1 単位		
時間数	3 0 時間		
学 科	東洋医療学科	配当年次	2 年
必修・選択区分	必 修		
実務経験	あん摩マッサージ指圧師，はり師，きゅう師		

講義内容・目標	正しい姿勢で施術ができるように練習を積み、母指の持久力を養い、長時間の施術に耐えうる技術を身につけることを目標とする。		
授業計画		あん摩マッサージ指圧実技（Ⅲ） 1 あん摩の揉捏法について 2 肩背部の揉捏法の練習 3 坐位肩背部のあん摩 4 " 5 坐位上肢部のあん摩 6 " 7 側臥位肩背部のあん摩 8 " 9 側臥位上肢部のあん摩 10 " 11 坐位肩背部・上肢部のあん摩復習 12 坐位肩背部・上肢部の運動操作 13 側臥位肩背部・上肢部のあん摩復習 14 側臥位肩背部・上肢部の運動操作 15 あん摩の総復習	

成績評価	臨床実習前試験
評価基準	6 0 点以上（1 0 0 点満点）

分 野	専門分野		
教育内容	実 習		
講義名	はりきゅう実技		
授業方法	実 技		
単位数	3 単位		
時間数	90 時間		
学 科	東洋医療学科	配当年次	2 年
必修・選択区分	必 修		
実務経験	はり師、きゅう師		

講義内容・目標	身体各部の刺鍼手技を的確に行うこと。また穏やかな八分灸、熱くない透熱灸ができるようになる。			
授業計画		はり実技（Ⅱ）		きゅう実技（Ⅱ）
	1	片手挿管 1 分間タイムトライアル （目標 15 回以上 毎回実施）	1	視聴覚、北京中医学院における実技
	2	前腕背側部 下腿外側及び前面部	2	督脈上の実技
	3	〃	3	〃
	4	〃	4	任脈上の実技
	5	〃	5	〃
	6	〃	6	肺経上の実技
	7	前腕外側部・手部及び下腿内側部	7	大腸経上の実技
	8	〃	8	大腸経、胃経上の実技
	9	〃	9	胃経上の実技
	10	〃	10	〃
	11	前腕掌側部と尺側部および 下腿後側部・足部	11	灸頭鍼法（上肢・下肢）
	12	〃	12	〃
	13	〃	13	脾経上の実技
	14	〃	14	〃
	15	〃	15	心経上の実技
	16	肩周囲部 膝周囲部 大腿外側・内側部	16	小腸経上の実技
	17	〃	17	膀胱経上の実技
	18	〃		
	19	後頸部・顔面部		
	20	〃		
	21	肩上部・上背部		
	22	〃		
	23	〃		
	24	低周波鍼通電療法（上肢・下肢）		
	25	〃		
	26	〃		
	27	低周波鍼通電療法（背部・腰部）		
	28	〃		

成績評価	実技試験
評価基準	60 点以上（100 点満点）

分 野	専門分野		
教育内容	実 習		
講義名	はりきゅう実技		
授業方法	実 技		
単位数	3 単位		
時間数	9 0 時間		
学 科	東洋医療学科	配当年次	2 年
必修・選択区分	必 修		
実務経験	はり師、きゅう師		

講義内容・目標	臨床の第一歩に対応できることを目標に、刺鍼技術全般のグレードアップを目指す。			
授業計画		はり実技（Ⅲ）		きゅう実技（Ⅲ）
	1	上背部（兪穴）	1	視聴覚、ツボからみた東洋医学 ―鍼灸の最前線―
	2	〃	2	灸頭鍼法（背部・腰部）
	3	〃	3	〃
	4	〃	4	膀胱経上の実技
	5	前頸部・頭部	5	腎経上の実技
	6	〃	6	〃
	7	前胸部・腹部（募穴）	7	心包経上の実技
	8	〃	8	心包経、三焦経上の実技
	9	〃	9	三焦経上の実技
	10	経外奇穴の取穴と刺鍼	10	〃
	11	1、前腕部 2、手部（手鍼穴）	11	胆経上の実技
	12	3、下腿部・足部 4、大腿部	12	〃
	13	5、肩周囲部 6、頸部	13	灸頭鍼法（後頸部・顔面部）
	14	7、顔面部	14	〃
	15	8、上背部・腰部・仙骨部	15	胆経上の実技
	16	スキン鍼法	16	〃
	17	打管鍼法	17	肝経上の実技
	18	頭髮際鍼法	18	〃
	19	肢体運動刺鍼法	19	奇穴の実技
	20	良導絡療法	20	〃
	21	〃		
	22	〃		
	23	〃		
	24	低周波鍼通電療法（後頸部・顔面部）		
	25	〃		

成績評価	臨床実習前試験
評価基準	6 0 点以上（1 0 0 点満点）

分 野	専門分野		
教育内容	実 習		
講義名	臨床基礎実習		
授業方法	実 技		
単位数	1 単位		
時間数	3 0 時間		
学 科	東洋医療学科	配当年次	2 年
必修・選択区分	必 修		
実務経験	あん摩マッサージ指圧師，はり師，きゅう師		

講義内容・目標	3 年次の臨床実習に備え医療面接を中心に、施術者として求められている態度など、患者との円滑なコミュニケーションを図れるようにする。	
授業計画	1	医療面接とは
	2	医療面接の目的と構造
	3	医療面接とコミュニケーション
	4	質問法（開かれた質問・閉ざされた質問・傾聴）
	5	患者への説明と教育
	6	グループワーク
	7	〃
	8	ガイダンス
	9	業務開始前の準備（掃除、カルテの準備、鍼灸道具のセット・補充）
	10	患者の誘導と問診（医療面接）
	11	鍼灸道具の片付け（オートクレーブの操作など）
	12	カルテの書き方
	13	〃
	14	カンファレンス
	15	〃

成績評価	筆記試験
評価基準	6 0 点以上（1 0 0 点満点）

分 野	専門分野		
教育内容	総合領域		
講義名	特殊療法		
授業方法	講 義		
単位数	単位		
時間数	時間		
学 科	東洋医療学科	配当年次	2 年
必修・選択区分	必 修		
実務経験	はり師，きゅう師の資格をもつ教員が、鍼灸に関する知識と臨床経験を活かし講義を行う。		

講義内容・目標		
授業計画	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	特殊療法（Ⅰ） 経絡治療総論 特殊療法(標治法)総論 経絡治療の構成 経絡治療の証決定・適応側 脉診の概要・六部定位脉診 六部定位脉診による証決定 経絡腹診 補法について(選穴) 補法について(取穴・刺鍼法) 瀉法について(選穴・取穴・刺鍼法)

成績評価	筆記試験
評価基準	60点以上（100点満点）

分 野	専門分野		
教育内容	総合領域		
講義名	特殊療法		
授業方法	講 義		
単位数	単位		
時間数	時間		
学 科	東洋医療学科	配当年次	2 年
必修・選択区分	必 修		
実務経験	はり師、きゅう師の資格をもつ教員が、鍼灸に関する知識と臨床経験を活かし講義を行う。		

講義内容・目標		
授業計画	1	特殊療法（Ⅱ） 子午治療・経絡流注から導く治療点
	2	子午治療・経絡流注から導く治療点実技
	3	生理物質について
	4	四診・手技の復習実技
	5	問診
	6	陰陽学説
	7	五行学説
	8	五行色体
	9	奇経治療
	10	奇経治療実技
	11	蔵象学説
	12	蔵象学説(肝・胆の生理)
	13	蔵象学説(心・小腸・心包・三焦の生理)
	14	蔵象学説(脾・胃の生理)
	15	蔵象学説(肺・大腸・腎・膀胱の生理)
	16	経絡骨盤調整療法
	17	経絡骨盤調整療法実技
	18	経絡頸肩部調整療法
	19	経絡頸肩部調整療法実技
	20	病因論 1
	21	病因論 2
	22	病因論 3
	23	標治法まとめ
	24	標治法まとめ実技
	25	病症論 1
	26	病症論 2
	27	病症論 3
	28	四診法
	29	四診法
	30	本治法まとめ

成績評価	筆記試験
評価基準	60点以上（100点満点）

分 野	基礎分野		
教育内容	科学的思考の基盤、人間と生活		
講義名	医療経営学		
授業方法	講 義		
単位数	2 単位		
時間数	3 0 時間		
学 科	東洋医療学科	配当年次	3 年
必修・選択区分	必 修		
実務経験			

講義内容・目標	事業及び個人のお金に関する知識のうち何がポイントとなるかを明確にした上で、必要とされる知識をイメージしやすいように身近な話や時事的なトピックと結び付けながら、面白く且、楽しみながら身に付けていくことを目標とする。	
授業計画	1	総 論（申告・税金についての概要 1 回目）
	2	〃 （申告・税金についての概要 2 回目）
	3	〃 （申告・税金についての概要 3 回目）
	4	個人事業とサラリーマン（給与所得者）の違い 青色申告・白色申告とは何か
	5	専従者給与について
	6	個人事業と法人（会社）との違い
	7	開業資金借入について・住宅ローンについて
	8	公的保険制度について（社会保険と国保・国民年金）
	9	決算書の仕組み 仕訳の基礎知識 第 1 回目（簿記総論 現金主義）
	10	仕訳の基礎知識 第 3 回目（発生主義）
	11	仕訳の応用（減価償却について）
	12	決算書作成のポイント
	13	確定申告書作成のポイント
	14	復習
	15	まとめ

成績評価	筆記試験
評価基準	6 0 点以上（1 0 0 点満点）

分 野	専門基礎分野		
教育内容	人体の構造と機能		
講義名	人体の構造と機能		
授業方法	講 義		
単位数	2 単位		
時間数	4 0 時間		
学 科	東洋医療学科	配当年次	3 年
必修・選択区分	必 修		
実務経験	はり師、きゅう師		

講義内容・目標	各関節の筋肉・動作、正常歩行・異常歩行について学ぶ。		
授業計画	1	人体の構造と機能（V）	
	2	てこ	
	3	関節の運動	
	4	姿勢とその異常	
	5	運動路と感覚路（下行性伝導路）	
	6	〃 （上行性伝導路）	
	7	反射と随意運動（脊髄反射）	
	8	〃 （連合反応と共同運動）	
	9	脊柱・体幹の機能	
	10	脊柱の動きと筋の作用	
	11	胸郭の動きと呼吸筋の作用	
	12	肩甲帯・肩の機能	
	13	肩甲上腕リズム	
	14	肘と前腕の機能	
	15	回内・回外運動	
	16	手と手指の機能	
	17	骨盤の機能	
	18	膝関節の機能	
	19	足の機能	
	20	正常歩行	
		異常歩行	

成績評価	筆記試験
評価基準	6 0 点以上（1 0 0 点満点）

分 野	専門基礎分野		
教育内容	疾病の成り立ち、予防及び回復の促進		
講義名	リハビリテーション医学		
授業方法	講 義		
単位数	2 単位		
時間数	4 0 時間		
学 科	東洋医療学科	配当年次	3 年
必修・選択区分	必 修		
実務経験	はり師、きゆう師		

講義内容・目標	リハビリテーションの総論・各論について学ぶ。	
授業計画	1	リハビリテーションの概要
	2	医学的リハビリテーションの概要
	3	障害の評価(機能障害)
	4	〃 (能力低下)
	5	医学的リハビリテーション(理学療法、作業療法)
	6	〃 (言語療法)
	7	脳卒中のリハビリテーション(麻痺と合併症)
	8	〃 (急性期、回復期リハビリテーション)
	9	脊髄損傷(高位診断)
	10	〃 (回復期リハビリテーション)
	11	切断のリハビリテーション
	12	脳性麻痺のリハビリテーション
	13	骨・関節疾患のリハビリテーション(五十肩)
	14	〃 (腰痛)
	15	〃 (変形性膝関節症)
	16	関節リウマチのリハビリテーション
	17	末梢神経障害のリハビリテーション
	18	パーキンソン病のリハビリテーション
	19	呼吸器疾患のリハビリテーション
	20	心疾患のリハビリテーション

成績評価	筆記試験
評価基準	6 0 点以上 (1 0 0 点満点)

分 野	専門基礎分野		
教育内容	疾病の成り立ち、予防及び回復の促進		
講義名	臨床医学各論		
授業方法	講 義		
単位数	4 単位		
時間数	80 時間		
学 科	東洋医療学科	配当年次	3 年
必修・選択区分	必 修		
実務経験	はり師、きゅう師		

講義内容・目標	各疾患の特徴・症状などについて理解できる。	
授業計画	1	消化器疾患
	2	〃
	3	呼吸器疾患
	4	〃
	5	循環器疾患
	6	〃
	7	血液疾患
	8	内分泌および代謝疾患
	9	〃
	10	アレルギーおよび膠原病
	11	感染症
	12	腎・尿路疾患
	13	〃
	14	神経内科および脳神経外科の主要症候
	15	脳血管障害
	16	〃
	17	〃
	18	感染症および炎症性疾患
	19	脳腫瘍
	20	神経系の変性疾患
	21	〃
	22	末梢神経疾患
	23	関節疾患
	24	筋疾患
	25	骨疾患
	26	形態異常
	27	頸腕症候群
	28	腰痛・坐骨神経症候群
	29	脊髄損傷
	30	スポーツ医学
	31	一般外科
	32	麻酔科
	33	眼科疾患
	34	耳鼻咽喉科疾患
	35	皮膚科疾患
	36	小児科疾患
	37	婦人科疾患
	38	歯科口腔疾患
	39	泌尿器科疾患
	40	精神科疾患 【付】 検査値とその解釈

成績評価	筆記試験
評価基準	60 点以上（100 点満点）

分 野	専門分野		
教育内容	臨床あん摩マッサージ指圧学、臨床はり学、臨床きゅう学		
講義名	臨床東洋医学		
授業方法	講 義		
単位数	4 単位		
時間数	80 時間		
学 科	東洋医療学科	配当年次	3 年
必修・選択区分	必 修		
実務経験	はり師、きゅう師		

講義内容・目標	臨床上遭遇しやすい症候・病証に対する現代医学と東洋医学を総合して、鍼灸治療を学習する。		
授業計画	1	臨床東洋医学（Ⅱ）	
	2	肩こり	現代医学的な考え方
	3	〃	東洋医学的な考え方
	4	頸肩腕痛	現代医学的な考え方
	5	〃	東洋医学的な考え方
	6	肩関節痛	現代医学的な考え方
	7	〃	東洋医学的な考え方
	8	上肢痛	現代医学的な考え方
	9	〃	東洋医学的な考え方
	10	腰下肢痛	現代医学的な考え方
	11	〃	東洋医学的な考え方
	12	膝 痛	現代医学的な考え方
	13	〃	東洋医学的な考え方
	14	運動麻痺	現代医学的な考え方
	15	〃	東洋医学的な考え方
	16	高血圧	現代医学的な考え方
	17	〃	東洋医学的な考え方
	18	低血圧	現代医学的な考え方
	19	〃	東洋医学的な考え方
	20	食欲不振	現代医学的な考え方
	21	〃	東洋医学的な考え方
	22	肥 満	現代医学的な考え方
	23	〃	東洋医学的な考え方
	24	発 熱	現代医学的な考え方
	25	〃	東洋医学的な考え方
	26	のぼせと冷え	現代医学的な考え方
	27	〃	東洋医学的な考え方
	28	不 眠	現代医学的な考え方
	29	〃	東洋医学的な考え方
	30	疲労と倦怠	現代医学的な考え方
	31	〃	東洋医学的な考え方
	32	発 疹	現代医学的な考え方
	33	〃	東洋医学的な考え方
	34	小児の症状	現代医学的な考え方
	35	〃	東洋医学的な考え方
	36	スポーツ医学	スポーツ医学の概要
	37	〃	スポーツ外傷・障害
	38	〃	スポーツ外傷・障害
	39	老年医学	老年医学の特徴
	40	〃	老年者の疾患
	41	まとめ	

成績評価	筆記試験
評価基準	60 点以上（100 点満点）

分 野	専門分野		
教育内容	臨床あん摩マッサージ指圧学、臨床はり学、臨床きゅう学		
講義名	臨床東洋医学		
授業方法	講 義		
単位数	2 単位		
時間数	4 0 時間		
学 科	東洋医療学科	配当年次	3 年
必修・選択区分	必 修		
実務経験	はり師、きゅう師		

講義内容・目標	弁証論治を臨床に生かせるようになる。		
授業計画	1	臨床東洋医学（Ⅲ）	
	2	八綱弁証	
	3	気血津液弁証	
	4	臓腑弁証	
	5	経絡弁証	
	6	六淫弁証	
	7	六経弁証	
	8	衛気営血弁証	
	9	三焦弁証	
	10	標本と主客	
	11	治則	
	12	治法八法	
	13	生理物質の病証に対する治法	
	14	臓腑病証の病証に対する治法	
	15	外感病の病証に対する治法	
	16	症候に対する治法	
	17	その他の治法	
	18	鍼灸の補瀉	
	19	選穴の法則	
	20	湯液	
		弁証の進め方	

成績評価	筆記試験
評価基準	6 0 点以上（1 0 0 点満点）

分 野	専門分野		
教育内容	臨床あん摩マッサージ指圧学、臨床はり学、臨床きゅう学		
講義名	臨床東洋医学		
授業方法	講 義		
単位数	4 単位		
時間数	80 時間		
学 科	東洋医療学科	配当年次	3 年
必修・選択区分	必 修		
実務経験	はり師、きゅう師		

講義内容・目標		臨床上遭遇しやすい症候・病証に対する現代医学と東洋医学を総合して、鍼灸治療を学習する。
授業計画		臨床東洋医学（Ⅳ）
	1	ガイダンス
	2	頭 痛 現代医学的な考え方
	3	〃 東洋医学的な考え方
	4	顔面痛 現代医学的な考え方
	5	〃 東洋医学的な考え方
	6	顔面麻痺 現代医学的な考え方
	7	〃 東洋医学的な考え方
	8	歯 痛 現代医学的な考え方
	9	〃 東洋医学的な考え方
	10	眼精疲労 現代医学的な考え方
	11	〃 東洋医学的な考え方
	12	鼻閉、鼻汁 現代医学的な考え方
	13	〃 東洋医学的な考え方
	14	脱 毛 現代医学的な考え方
	15	〃 東洋医学的な考え方
	16	めまい 現代医学的な考え方
	17	〃 東洋医学的な考え方
	18	耳鳴り、難聴 現代医学的な考え方
	19	〃 東洋医学的な考え方
	20	咳 嗽 現代医学的な考え方
	21	〃 東洋医学的な考え方
	22	喘 息 現代医学的な考え方
	23	〃 東洋医学的な考え方
	24	胸 痛 現代医学的な考え方
	25	〃 東洋医学的な考え方
	26	腹 痛 現代医学的な考え方
	27	〃 東洋医学的な考え方
	28	悪心と嘔吐 現代医学的な考え方
	29	〃 東洋医学的な考え方
	30	便 秘 現代医学的な考え方
	31	〃 東洋医学的な考え方
	32	下 痢 現代医学的な考え方
	33	〃 東洋医学的な考え方
	34	月経異常 現代医学的な考え方
	35	〃 東洋医学的な考え方
	36	排尿障害 現代医学的な考え方
	37	〃 東洋医学的な考え方
	38	インポテンツ 現代医学的な考え方
	39	〃 東洋医学的な考え方
	40	まとめ

成績評価	筆記試験
評価基準	60 点以上（100 点満点）

分 野	専門分野		
教育内容	社会あん摩マッサージ指圧学、社会はり学、社会きゅう学		
講義名	社会あはき学		
授業方法	講 義		
単位数	1 単位		
時間数	20 時間		
学 科	東洋医療学科	配当年次	3 年
必修・選択区分	必 修		
実務経験	はり師、きゅう師		

講義内容・目標	救命救急を要する対象疾患の特徴（病態、診断、治療）を理解し、鍼灸師としての必要な処置について学習する。		
授業計画	1	社会あはき学（Ⅱ）	
	2	医療過誤 折鍼の予防とその対策 感染の予防とその対策（消毒含む）	
	3	気胸の予防とその対策	
	4	失神（脳貧血）の予防とその対策	
	5	火傷の予防とその対策	
	6	出血について 止血の方法	
	7	応急処置 意識の確認 意識の確認の手順 呼吸、脈拍、血圧の確認	
	8	気道確保について 上手な気道確保の仕方	
	9	人工呼吸について 人工呼吸の注意点 胸骨圧迫について 正確な胸骨圧迫	
	10	人工呼吸について AED について AED の使用方法とその注意点 体位変換について 気道閉塞への対応	

成績評価	筆記試験
評価基準	60 点以上（100 点満点）

分 野	専門分野		
教育内容	実 習		
講義名	あん摩マッサージ指圧師実技		
授業方法	実 技		
単位数	3 単位		
時間数	9 0 時間		
学 科	東洋医療学科	配当年次	3 年
必修・選択区分	必 修		
実務経験	あん摩マッサージ指圧師の資格をもつ教員が、あん摩マッサージ指圧に関する知識と臨床経験を活かし実技授業を行う。		

講義内容・目標	身体各部へ、それぞれ適した基本手技を理解し、施術できる技術を習得する。解剖学を理解した上で、施術部位の筋肉を把握し体表観察ができるよう深める。		
授業計画	1	あん摩マッサージ指圧師実技（Ⅳ）（Ⅴ）	
	2	あん摩の定義、基本手技について	
	3	肩背部 坐位による軽擦法	
	4	〃	
	5	肩背部 坐位による把握、圧迫法	
	6	肩背部 坐位による揉捏法	
	7	肩背部 坐位による曲手	
	8	肩背部 坐位による叩打法	
	9	肩背部 坐位による運動法	
	10	肩背部 坐位による施術のまとめ	
	11	頸部 坐位による軽擦法	
	12	頸部 坐位による揉捏法	
	13	〃	
	14	頸部 坐位による曲手、叩打法、運動法	
	15	頸部 坐位による施術のまとめ	
	16	頭部 坐位による軽擦法、圧迫法	
	17	頭部 坐位による揉捏法	
	18	頭部 坐位による曲手、叩打法	
	19	頭部 坐位による施術のまとめ	
	20	上肢部 坐位による軽擦法、圧迫法	
	21	上肢部 坐位による揉捏法	
	22	〃	
	23	〃	
	24	上肢部 坐位による叩打法、運動法	
	25	上肢部 坐位による施術のまとめ	
	26	肩背部 側臥位による軽擦法、把握、圧迫法	
	27	肩背部 側臥位による揉捏法	
	28	肩背部 側臥位による施術のまとめ	
	29	頸部 側臥位による軽擦法、揉捏法	
	30	頸部 側臥位による揉捏法	
	31	頸部 側臥位による施術のまとめ	
	32	上肢部 側臥位による軽擦法、揉捏法	
	33	上肢部 側臥位による揉捏法	
	34	上肢部 側臥位による叩打法、運動法	
	35	上肢部 側臥位による施術のまとめ	
	36	腰殿部 側臥位による軽擦法、圧迫法、揉捏法	
	37	臀部三線 側臥位による軽擦法、圧迫法、揉捏法	
	38	腰殿部、臀部三線 側臥位によるまとめ	
	39	下肢部 側臥位による軽擦法、圧迫法、揉捏法	
	40	下肢部 仰臥位による軽擦法、圧迫法、揉捏法	
	41	下肢部、足部 側臥位、仰臥位によるまとめ	
	42	足部 仰臥位による揉捏法、圧迫法、運動法	
	43	あん摩総合復習 疾患別施術法	
	44	〃 〃	
	45	〃 〃	

成績評価	卒業実技試験
評価基準	6 0 点以上（1 0 0 点満点）

分 野	専門分野		
教育内容	実 習		
講義名	はりきゅう実技		
授業方法	実 技		
単位数	3 単位		
時間数	90 時間		
学 科	東洋医療学科	配当年次	3 年
必修・選択区分	必 修		
実務経験	はり師、きゅう師の資格をもつ教員が、鍼灸に関する知識と臨床経験を活かし実技授業を行う。		

講義内容・目標	体幹部の体表観察、触診を行い骨・筋を理解することができる。 体幹部の骨筋を理解した上で障害部位に対し適切な治療をすることができる 内科疾患に対する鍼灸・手技療法をすることができる。臨床実習に向けて全身施術ができるようになる。 卒業後に向けてあま指の総合的な治療法を理解し開業に対する考え方ができるようになる。	
授業計画	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45	はりきゅう実技 (Ⅳ) (Ⅴ) 治療の概要の説明 胃疾患 食道・胃疾患に対する治療穴の説明 胃疾患に対する治療穴の取穴と鍼灸実技 肝胆膵 十二指腸周囲の疾患に対する治療穴の説明 肝胆膵に対する治療穴の取穴と鍼灸実技 肝胆膵 肝胆膵に対する治療穴の説明 肝胆膵に対する治療穴の取穴と鍼灸実技 大小腸 便秘・下痢症状に対する治療穴の説明 大小腸に対する治療穴の取穴と鍼灸実技 大小腸 虫垂炎・痔疾患に対する治療穴の説明 大小腸に対する治療穴の取穴と鍼灸実技 泌尿器疾患 腎疾患に対する治療穴の説明 泌尿器疾患に対する治療穴の取穴と鍼灸実技 泌尿器疾患 膀胱疾患に対する治療穴の説明 泌尿器疾患に対する治療穴の取穴と鍼灸実技 婦人科疾患 月経異常に対する治療穴の説明 婦人科疾患に対する治療穴の取穴と鍼灸実技 婦人科疾患 更年期症状に対する治療穴の説明 婦人科疾患に対する治療穴の取穴と鍼灸実技 呼吸器 風邪症候群・気管支疾患に対する治療穴の説明 呼吸器に対する治療穴の取穴と鍼灸実技 心臓疾患 不整脈と動悸に対する治療穴の説明 心臓疾患に対する治療穴の取穴と鍼灸実技 頭部 頭痛に対する治療穴の説明 頭部疾患に対する治療穴の取穴と鍼灸実技 頭部 高・低血圧に対する治療穴の説明 高・低血圧に対する治療穴の取穴と鍼灸実技 神経症 不眠症に対する治療穴の説明 神経症に対する治療穴の取穴と鍼灸実技 神経症 不安神経症に対する治療穴の説明 神経症に対する治療穴の取穴と鍼灸実技 眼科疾患 仮性近視・斜視に対する治療穴の説明 眼科疾患に対する治療穴の取穴と鍼灸実技 眼科疾患 白内・緑内障の予防に対する治療穴の説明 眼科疾患に対する治療穴の取穴と鍼灸実技 耳疾患 耳部炎症疾患・耳鳴り・難聴に対する治療穴の説明 耳疾患に対する治療穴の取穴と鍼灸実技 耳疾患 めまいに対する治療穴の説明 耳疾患に対する治療穴の取穴と鍼灸実技 鼻疾患 アレルギー性鼻炎・鼻閉や嗅覚異常に対する治療穴の説明 鼻疾患に対する治療穴の取穴と鍼灸実技 顔面部 咽喉疾患に対する治療穴の説明 顔面部に対する治療穴の取穴と鍼灸実技 顔面部 顎関節症・歯痛・顔面痙攣に対する治療穴の説明 顔面部に対する治療穴の取穴と鍼灸実技
成績評価	卒業実技試験	
評価基準	60点以上(100点満点)	

分 野	専門分野		
教育内容	臨床実習		
講義名	臨床実習		
授業方法	講 義		
単位数	4 単位		
時間数	1 8 0 時間		
学 科	東洋医療学科	配当年次	3 年
必修・選択区分	必 修		
実務経験	あん摩マッサージ指圧師，はり師，きゅう師		

講義内容・目標	患者とのコミュニケーションが図れること。四診が行えること。診察により病態を把握できること。治療方針を立て基本的な施術が行えること。カルテ記載ができること。受付業務ができることを目標とする。
授業計画	1) ～ 90) までの実習内容 〔実習内容〕 ・受付業務および患者とのコミュニケーション ・患者との医療面接（問診）とコミュニケーション ・患者への診察（四診） ・病態の検討および把握（弁証） ・治療計画（治療方針・治療法）の検討および決定 ・施術 ・カルテの記載 以上の実習内容を教員の指導のもとに行う。受け付け業務は当番制で行う。 受付業務は当番制で行う。

成績評価	臨床実習評価
評価基準	6 0 点以上（1 0 0 点満点）

分 野	専門分野		
教育内容	総合領域		
講義名	東洋医学総合講義		
授業方法	講 義		
単位数	3 単位		
時間数	60 時間		
学 科	東洋医療学科	配当年次	3 年
必修・選択区分	必 修		
実務経験	はり師、きゅう師		

講義内容・目標	過去に学んだ東洋医学概論、東洋医学臨床論、経絡経穴学、はりきゅう理論を総合的に理解し、過去の国家試験問題を解けるようになる。	
授業計画	1	東洋医学の思想(陰陽・五行)
	2	東洋医学における生理と病理
	3	四診
	4	弁証論治
	5	東洋医学の疾病観
	6	治療論
	7	疾病治療総論
	8	疾病治療各論(循環器)
	9	〃 (呼吸器)
	10	〃 (消化器)
	11	〃 (泌尿器)
	12	〃 (生殖器)
	13	〃 (整形外科)
	14	〃 (徒手検査)
	15	〃 (スポーツ疾患)
	16	要 穴(五行穴・五腧穴)
	17	〃 (四総穴、八会穴、八脈交会穴、下合穴)
	18	要穴の取穴
	19	疾病治療の経穴
	20	奇穴(特効穴)
	21	刺鍼の方法と術式
	22	灸の基本知識と灸術の種類
	23	鍼灸の臨床応用
	24	リスク管理
	25	鍼灸治効の基礎
	26	鍼灸療法の一般的治効理論
	27	関連学説
	28	神経生理
	29	まとめ復習
	30	〃

成績評価	卒業学科試験
評価基準	60 点以上 (100 点満点)

分 野	専門分野		
教育内容	総合領域		
講義名	特殊療法		
授業方法	講 義		
単位数	3 単位		
時間数	60 時間		
学 科	東洋医療学科	配当年次	3 年
必修・選択区分	必 修		
実務経験	はり師、きゅう師の資格をもつ教員が、鍼灸に関する知識と臨床経験を活かし講義を行う。		

講義内容・目標	本科目の講義を通して様々な鍼灸療法を学び、鍼灸治療の引き出しを増やして、多くの臨床場面に対応できるようになる事と様々な刺鍼療法の体験から毫鍼の刺鍼技術の向上を図る。		
授業計画	1	特殊療法（Ⅲ）	
	2	打管鍼法	
	3	皮内鍼法	
	4	小児鍼法	
	5	小児の灸法	
	6	スキン鍼法	
	7	横刺鍼法：坂井流	
	8	古代中国の刺法	
	9	中国金代の刺法	
	10	杉山流刺鍼手技法	
	11	刺絡療法	
	12	吸角療法	
	13	控刺鍼：簡易控刺法	
	14	澤田流太極療法	
	15	灸頭鍼療法	
	16	棒 灸	
	17	押 灸	
	18	箱 灸	
	19	肢体運動刺鍼法	
	20	体位鍼	
	21	奇経療法	
	22	異種金属療法	
	23	イオンパンピング療法	
	24	本田式下腿三頭筋テスト法	
	25	人迎脈口診	
	26	消炎鍼法	
	27	赤羽氏知熱感度測定法	
	28		
	29		
	30		

成績評価	筆記試験
評価基準	60 点以上（100 点満点）